

釧路森林資源活用円卓会議（第2回 全体会）について

1. 開催日時 平成 25 年 11 月 26 日（火）午前 10 時～12 時
2. 開催場所 釧路工業技術センター 2F 会議室
3. 参加人数 委員 16 人、オブザーバ 7 人、事務局 8 人
4. 会議の概要

- ・釧路森林資源活用円卓会議は、川上（木材産出側）から川下（木材供給側）の関係者が一堂に会し、森林資源を活用する取組について話し合いを行う会議。
- ・鈴木不二男座長（釧路地方林業会会長）の進行のもと、議論を行った。
- ・事務局である釧路市より、平成 25 年度の取組状況の確認と平成 26 年度の取組などについて話し合いがなされ、あわせて平成 25 年度「木づかい運動顕彰」林野庁長官賞を受賞したことが報告された。



挨拶する鈴木座長

【今年度の取組】

- ・第 1 回川上上部会の内容について大澤川上部会長より報告があった。低コスト林業のためには路網整備が必要不可欠ということとなった。
- ・長谷川川下部会長より、くしろ・ねむろ木づなの家の取組について、8 月に事業採択され、現段階で 2 棟建設予定と報告があった。

【木づなプロジェクトの PR ポスター、シールについて】

- ・木づなプロジェクトを PR するためのポスターやシールを作成するに当たり、デザインや文面をよりインパクトのあるものにするべきで、また高齢者にも読みやすいような配慮が必要ということとなった。

【今後予定のイベント開催について】

- ・木の良さを伝える単独イベントを開催するべきであるという意見も出て、引き続き検討課題となった。

【平成 26 年度の取組について ～林業専用道について～】

- ・阿寒町飽別の市有林内に林業専用道の整備計画が報告された。

【平成 26 年度の取組について ～カラマツオイルの商品開発～】

- ・音別町の社会福祉施設、釧路工業技術センターと連携して、カラマツの枝葉からカラマツ精油の商品開発する計画について報告があった。

【平成 26 年度の取組について ～シカ対策について～】

- ・森林におけるシカ被害は深刻で、シカの食害だけでなく、派生してハンターによる誤射など問題は多岐にわたる。シカ対策についてはこの円卓会議において、引き続き議論することとなり、低コストなシカ対策を検討していくこととなった。

【平成 26 年度の取組について ～市有林収支見込～】

- ・市有林の販売収入をどう使っていくかは、引き続きの検討事項ということとなった。

5. 会議における主な意見

【今年度の取組について】

- ・11月13日に川上部会が国有林の現場で開催された。平成18年度から低コスト作業の取組を進めているので、生産性の高い現場であった。林業専用道の整備には以下の3点に注意を払う必要がある。伐開幅を広くすることによって、雨が降っても路面が乾きやすくする。沢筋に開設するので、汚泥が河川に入り込まないようにする。高性能林業機械の出入りがしやすいような取付へ配慮する
- ・木材の安定供給に林道整備は必要不可欠
- ・くしろ・ねむろ木づなの家の取組については、8月に9棟分の補助金が採択された。現在2棟が、着工が予定されている。
- ・ハイブリッドログハウスの開発を進めている。ハイブリッドログハウスとは、在来工法に半割丸太を張ってできるログハウスである。カラマツの乾燥材を使用し、これから着工に入る。

【PRポスター、シールのデザインについて】

- ・PRポスターであるが、全道3位より、北海道の市の中で1位という方がインパクトがある。
- ・PRポスターは、字を大きくするなど、インパクトのあるものにした方が良い
- ・PRポスターの画像が荒いので、画質の良いものを使用した方が良い
- ・PRシールについては、シールを張ったあと、雑巾で水拭きしても取れにくい素材が良い。ユポ紙で、耐水性、耐光性の高いものを使用する予定
- ・PRシール(小)は、字が小さいので、高齢者には見えづらいのでは。
- ・PRシール(大)のデザインで、バスや人は不要。「からまつで素敵なものをつくった」のがバスだと誤解を受けることもあるのでは。また、絵と本物が混ざるデザインは避けた方が良い。

【今後予定のイベント開催について】

- ・他のイベントとの抱き合わせではなく、木の良さを伝える単独イベントを開催するべき。
- ・くしろ安心住まいフェアについては、親子連れがほとんどである。一般の人にPRするなら参加するイベントを選んだ方が良い。

【平成26年度の取組について ~ 林業専用道の整備 ~】

- ・北海道は林内に高性能林業機械が入るので、低コスト林業のための路網作設は必要不可欠。
- ・そのため、高性能林業機械が林内に入りやすいことを前提とした道づくりが必要で、法面はなるべく低い方が良い。

【平成26年度の取組について ~ カラマツオイルの商品開発 ~】

- ・カラマツという樹種は、夏しか葉っぱが無いので、枝葉の収集に苦労しそうである。
- ・枝葉だけでなく、未利用材の活用も考えた方が良い。
- ・科学的な根拠をもとにしたカラマツ精油の効果、効能などがあれば、売りになる。
- ・間伐施業は、秋に実施するため、事業実施時期のカラマツの葉っぱは少なくなっている。

【平成26年度の取組について ~シカ対策~】

- ・西森林組合では、末口12cmの丸太を利用している。地下に1.2m程打ち込む必要がある
- ・自らが所有する森林でカラマツを植栽した。シカ被害が現れたので、シカ柵を設置したが、まわりのトドマツがシカの食害を受けた。まさにイタチごっこである。
- ・シカ柵の杭は、朽ち果てるが、ネットについては自然に帰らない。将来的には大量の廃棄物が発生する恐れがあり、今から予算を見ておく必要がある。
- ・林業の現場で働くものとしては、ハンターによる誤射があるので、山の中では目立つ格好をしているものの、恐怖と戦いながら日々、仕事している。円卓会議において、シカ対策に取り組む必要があるのではないか。
- ・シカの個体数調整は必要であるが、シカも学習するので、囲い罠を設置しても、捕獲数は伸びない。
- ・囲い罠とハンターは両立できないので、行政も含めた対策が必要である。行政も、市だけでなく近隣の町村との連携・調整が必要である。
- ・バングラディッシュの唐辛子を原料にした、動物除けのロープがある。有効期間は2~3カ月と言われているが、コストはだいぶ安くなる。
- ・しかし、そのロープは刺激臭が強烈なので、森林を散策する子供などが近寄らないようにする必要があるのである。
- ・低コスト林業のためには、低コスト育林の必要があり、シカ対策のコスト削減が必要である。

【平成26年度の取組 ~市有林収支見込~】

- ・収支見込を議論するには、金額のみではなく、事業量のhaや材積などの数量も無いと議論できない。
- ・販売収入の余った分を植林にまわす仕組みが必要である。
- ・造林費用と販売収入の関係は、今後も引き続き検討していくべき課題である